

データセンターあとがき

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなりました。日本造血細胞移植学会（JSHCT）が1993年から、日本小児血液・がん学会、日本骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワークと2006年から実施した一元化登録、そしてワーキンググループなどによるこの登録データの解析並びに2000年4月からの血縁造血幹細胞ドナーフォローアップ事業の重要性を、国が認め「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」が支援対象となったことは、JSHCTおよび登録移植施設、研究者の皆様のこれまでの努力の成果であります。特に2010年末に発足した23のJSHCTワーキンググループ（WG）/データ利用申請による学会・論文発表の活動性の高さは巻末のWG活動報告書や業績一覧でよくわかります。日本発の、TRUMPデータを用いた解析結果が多く出るようになり、これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、その質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。

データ収集・管理の質の向上を目的として、第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）を2015年1月15日にリリースいたしました。TRUMP2は、造血細胞移植アウトカムデータをオンライン一元管理することを目的として開発されたWebデータベースです。第一世代TRUMPにて課題とされていた非血縁者間移植における日本骨髄バンクや臍帯血バンクが管理する患者・ドナーのHLAや輸注細胞数情報等をオンラインデータ連携することで、施設における入力の手間を軽減するとともにデータの質の向上が期待されます。非血縁者間移植のバンクへの100日報告や、JDCHCTへの台帳登録・本登録にこれまで必要であった煩雑な提出作業も大幅にシンプルになります。2015年1月15日のリリース後、2月24日時点にて、188診療科がTRUMP2へのバージョンアップの上オンライン化くださいました。深くお礼申し上げます。20年以上の蓄積のあるデータベースを、既に登録されている75000件を超えるデータと共に一つのTRUMP2という構造で管理していくことは並大抵のことではありません。TRUMP2の導入、初期稼働においては、スムーズにいかないことも多々生じますが、どうか引き続きのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長	熱田由子
	システム担当	坪井秀樹、山田智史、浅野充洋
	データ解析担当	倉田美穂、柳澤昌実
	データマネージャー	伊藤千佳、米山結美
		中尾有佳里、前田希
	事務局	松原有希、鎌倉美鈴